



東陽病院外科医長  
佐野 隆久

胆石症や胆のうポリープの患者さんに対して、以前は腹部を大きく切開し、胆のうを摘出しました。近年の医療機器の進歩は目覚ましく、CCDカメラを使った電子内視鏡やビデオシステムの普及により、小さな切開創で胆のうを摘出することが可能となりました。

具体的にどのように行うかというと、へその下に4cm程の切開を加え、トラカールという器具を挿入して、そこから二酸化炭素を注入し気腹（お腹をふくらませる）します。そうすることにより、トラカールを介して挿入した電子内視鏡で、お腹の中を観察することが可能となります。次に、腹部に2cm足らずの小さな切開を3カ所加え、そこから手術器具（鉗子、電子メス、クリップ等）を挿入して胆のうを摘出します。胆のうを摘り終えるまでの一連の操作は、テレビモニターを見ながら行うわけで、手術をする者のお腹の中にも触れることはありません。このような手術法を腹腔鏡下胆のう摘

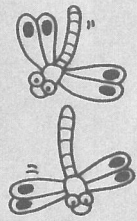
## —腹腔鏡下手術の導入— 胆のう摘出術について

出術と呼び、今までの開腹手術と比較して、手術後の疼痛や苦痛が軽く、入院期間が少なくすみます。また、創が小さく美容上も優れています。この方法は入院期間が短縮されることから、医療費の高い欧米で広く普及し、日本では1990年に第一例目の手術が行われました。その後、本邦においても爆発的に普及し現在に至っています。このように、

一般に普及してから数年余りの新しい手術法ではありますが、現在では他の臓器を摘出することも可能です。また、自然気胸という肺に穴のあく病気の治療法としても一般的に行われています。今後はさらに改良が加えられ、様々な病気の治療法として、腹腔鏡下手術は発展していくものと考えられます。

当院でも、世間のニーズに合わせるべく、今年度これらの機器を導入いたしました。今後は、この腹腔鏡下手術に限らず、新しい治療法を積極的に採り入れ、地域住民の皆様の治療に貢献していきたいと考えております。

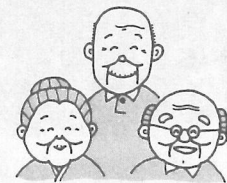
健康  
ウォッチング



## “繰り上げ請求”は慎重に！

### —老齢基礎年金—

老齢基礎年金は65歳から受け取ることが原則ですが、60歳を過ぎれば希望により“繰り上げ請求”することもできます。しかし、繰り上げて受けると次のような不利な面もありますので、よく考えて請求しましょう。



- ◎ 受け始める年齢によって別表のとおり年金額が減額され、減額率は生涯変わりません。
- ◎ 厚生年金や共済組合の加入期間のある方に支給される特別支給年金が、65歳まで支給停止となります。
- ◎ 遺族厚生年金などを受けているか又は受けられるようになったときは、65歳までどちらか一つしか受けられません。
- ◎ 万一障害者になってしまっても、障害年金はうけられません。
- ◎ 寡婦年金は受けられません。
- ◎ 65歳になるまでに、就職して第2号被保険者（厚生年金、共済組合の

加入者）になったとき、その期間は年金が支給停止となります。

年齢	支給率及び年金額	減額率
60歳	58% (455,600円)	42%
61 "	65% (510,600 "	35%
62 "	72% (565,600 "	28%
63 "	80% (628,400 "	20%
64 "	89% (699,100 "	11%
65 "	100% (785,500 "	

年金額は60歳まで完納した場合の金額です。

(平成9年4月現在の額)

※ 「人生80年」と言われる時代、老後は確実に長くなっています。若いときから積み上げてきた大切な年金ですので、老後の生活設計をよくお考えのうえ役場年金係で請求してください。